

2024年度
早稲田大学 創造理工学部
早稲田建築 AO 入試
第二次選考 筆記試験問題

《注意事項》

1. 試験時間は午前 10 時～午前 12 時です。
2. 問題冊子および解答用紙は、試験開始の合図があるまで開かないでください。
3. 解答用紙には、所定欄に受験番号および氏名を記入してください。ただし、所定欄以外に氏名、受験番号やその他個人を特定できる内容を記入しないでください。
4. 解答用紙の裏面の使用は認めません。解答はすべて解答用紙の所定欄（表側のみ、縦使い）に描き、自由にレイアウトして構いません。ただし、所定欄外には何も記入しないでください。
5. 解答には黒鉛筆を使用してください。濃さは自由です。シャープペンシルの使用は認めません。
6. 解答用紙のほかに、下書き用紙が配布されます。ただし、下書き用紙を解答用紙として提出することは認めません。
7. 問題冊子、下書き用紙は持ち帰ってください。
8. 解答用紙は必ず提出してください。
9. 問題冊子は表紙を除いて 1 枚 です。
10. 解答用紙は 1 枚 です。

2024年度 創造理工学部
早稲田建築 AO 入試 第二次選考
建築学科
(問 題)

問1 下記の文章を参考にしながら、あなたが考える「バリアフリー化された観光地の理想的な姿」を描いてください。

日本においては法律に基づいて、公共空間のバリアフリー化がこれまで着実に進められてきました。駅など公共性の高い施設から始まったバリアフリー化の取り組みは、現在では観光地もその対象とすることが推奨されるようになりました。しかしながら多くの場合、観光地とは古建築といった文化遺産や、風光明媚な自然遺産が核となって形成されたものです。したがって安易なバリアフリー化は、遺産としての価値自体を損ないかねません。例えば寺社仏閣の正面に無粋なエレベーターやスロープを設置することは、一般にも憚られるところでしょう。自然遺産においては、登山やトレッキングというかたちで地形を体感すること自体が愉しみとなるという場合も多く、そこでのバリアフリー化とは遺産としての価値の消滅を意味する可能性さえあります。

東日本大震災後に計画された海も見えないほど高い防潮堤について、ある建築家が言った言葉があります。そこには **vital** (=生命維持に必要な) はあっても **live** (=生きている) はないと。観光地のバリアフリー化とは直接関係ないことのようにも見えますが、実は安全と生きる喜びとのバランスをめぐる同根の問題として考えさせられる言葉であると思います。

問2 問1で描いた「バリアフリー化された観光地の理想的な姿」の背景となるあなた自身の着想や価値観について、解答用紙のマス目の中に320字以内で記してください。

